
結婚記念日

金地院 豊

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

結婚記念日

【著者名】

金地院 憂

【あらすじ】

結婚記念日に明らかになつた妻の過去とは。

「結局こんな時間になっちゃったなあ…」

9時を示す腕時計を覗き込み、白い息を吐き出す。

一流商社に勤める山本勇作は、ちょうど今田で結婚5年目である。記念日くらい早く家に帰るつもりが、企画書の不備で遅くなってしまった。

予約より2時間も遅れてケーキを取りに行き、よしやく帰路に着いていた。

春奈との出会いは大学生の時であった。

中学生の時に事故で両親を亡くしていた春奈は、アルバイトで学費を稼いでいた。

喫茶店のカウンターでコーヒーを入れる彼女を見た時に、俺は最初で最後の一目惚れをしたのだ。

その後店に通いつめて、ようやくデートの約束を取り付けた。

初めてのデートの日、意気込んで前日に買ったジャケットの襟から出ていた値札を、彼女は笑いながら取ってくれた。

写真という共通の趣味を持っていた俺達は意気投合し、交際にまで

発展した。

しかし、いつものようにパートをした翌日、彼女と連絡が取れなくなった。

バイト先を訪れたが、彼女は既に辞めた後だった。

そのまま2ヶ月が経つたある日、春奈から突然メールが届いた。

「今から初めて会った喫茶店で会えないかな。」

店に着くと、彼女は変わらぬ様子で本を読んでいた。

離れて暮らしていた姉が他界した、と彼女は説明した。

勇作は心配だつたが、春奈の元気な様子を見て安心した。

そして大学を卒業した後も二人は交際を続け、春奈の妊娠で一人は結婚を決めた。

同棲を始めた時に越してきたアパートの玄関に、今ではスリッパが3組置いてある。

真ん中にある小さなスリッパを見ると、一日の疲れが抜けていくのを感じる。

リビングに入ると、テレビに見入っていた春奈がこちらを向いた。

「おかえりなさい。

今日も残業でしょ。

晩ご飯温めるね。」「

「健はもう寝たのか。」「

勇作がネクタイを緩めながら聞いた。

「”パパ待ってる～”って黙々こねながらソファーで寝ちゃったよ。」「

春奈が唐揚げを盛り付けながら笑った。

二人で夕食を済ませた後、勇作は深くソファーにもたれ掛かった。

すると洗い物を終えた春奈が、見慣れないアルバムを一冊持つて来た。

「私と勇作の写真を、ずっと取つておいたの。
記念日だからじゃないけど、一緒に見ようよ。」「

と言つて俺の横に座り、わずかに埃を被つた深緑の表紙をめくつた。

そこには、一人で行った浜辺が、歩いて見に行つた紅葉が、そして結婚式の披露宴が留めてあつた。

楽しかつた思い出を切り取つて集めたアルバムの最後のページでは、生後間もない健の両手が、勇作と春奈の指をしっかりと掴んでいた。

その写真を見た勇作は、目を見開いた。

健が握る春奈の指にある黒子が、ページをめくる春奈の指には無い。

気が動転した勇作は春奈の手首を掴んで言った。

「ー、この眞に眞つてゐる黒子、無くなつてゐるよ。
どうかしたの。」

春奈は息を飲み、沈黙を続けた。

「どうしたんだよ春奈。」

勇作は声を荒げた。

口を結んでいた春奈が、突然笑い出した。

「案外分かるものなのね。
一生氣付かれないかと思つた。
それにして也可笑しいわ。」

勇作は呆気に取られ、ただ春奈を見ていた。

「まだ氣付かないの。
私は春奈の姉の春香なの。
あの時死んだはずの春香なのよ。」

勇作は訳が分からぬ。

彼女は続けた。

「風邪を引いていた春奈は、私が止めるのにも耳を貸さず、あなた

に会いに行つた。

その夜に春奈は風邪を拗らせて肺炎になり、入院した。結局春奈が家に帰る事はなかつた。

私はあなたを憎んだ。

妹を、たつた一人の家族を私から奪つたあなたが許せなかつた。」

「そんなバカな…」

勇作はたじろいだ。

「だから決めたの。
あなたに復讐するつて。
一番大切な人を失う悲しみを、あなたにも知つてもらいたいの。」

「ま、まさか…」

勇作は健の寝室へ走つた。

「気付くのが遅いわあ。
あなたが帰つて来ると決まって起きてくるあの子が、なぜか今日は
来ないじゃない。
でも大丈夫。
もうすぐあなたも健に会えるわ。
春奈によろしく伝えてね。」

ゆっくりとアルバムを閉じ、春香が寝室へ向かつた。

END

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3829p/>

結婚記念日

2010年12月9日15時47分発行